

林 重雄¹：福井県美浜町に白樺浮きの漂着Shigeo HAYASHI¹：Floats made from White Birch stranded on the beach of Mihama Town, Fukui Prefecture, Japan

シラカバ *Betula platyphylla* は温帯から亜寒帯地方に多く見られるカバノキ科 (Betulaceae) カバノキ属 (*Betula*) の植物のひとつであり、日本では北海道・本州中部以北、朝鮮、中国東北部に分布する。樹皮の粉白色が名の由来で、横長の皮目が非常に目立つ (貴島ほか 1977)。極東アジアのロシア、中国、日本、カザフスタン、朝鮮半島 (韓国・北朝鮮) では *Betula platyphylla* だけではなく、*Betula kamtschatica* や *Betula dahurica* などのカバノキ属の木が分布しており (井上 2012)、樹皮からのみでは樹種が特定できないため本論ではこれらをまとめて白樺と表現する。

白樺浮きは、生の白樺の樹皮を剥ぎ取り、剥ぎ取った樹皮がひっくり返って丸くなる性質を利用して作られた漁業用の浮きである。そのため白樺浮きの表面は、樹皮の内側が露出しており、切り取った際の直角になった角は、漁網や浮子網 (あばづな) と絡まないように、面取りをしてあることが多い。漂着した白樺浮きの直径は 2~5 cm ほど、全長は 7~15 cm ほどが多く、白樺浮き単独でも漂着するが、浮子網に通された状態で漂着したり、時には漁網も伴って漂着することがある。

白樺浮きは自然素材の浮きなので、かなり古くから使われてきたものと思われるが、福井市三里浜砂丘で出会った古老からの聞き取りでは、第二次大戦後の物資の乏しかった時代に、漂着した白樺浮きを集めて漁師のところに持っていくと、鰯のへしこ (福井特産の糠漬け) と交換してもらったことがあるそうで、昭和20年代初頭には漂着が知られていたようだ。

白樺浮きは福井県、石川県といった北陸地方では、漂着量に増減はあるものの冬季に普通に見られる漂着物であるが、製作・使用地域は特定されておらず、ロシアや北朝鮮ではないかと推測されているだけであった (石井 2013)。

漂着記録 筆者は2015年1月18日福井県美浜町松原海岸 (図1) で、漂着物調査中に浮子網に結わえられた白樺浮きと白い発泡スチレンボール (図2) を確認した。松原海岸は敦賀半島より西に位置し、敦賀の西10kmほどにある。松原海岸の北は敦賀湾に面しており、秋から冬にかけては漂着物が寄り集まりやすい場所である。松原海岸ではこれまでにココヤシ、ゴバンノアシ、アツミモダマといった南方系植物種子や果実、韓国、中国、ロシアなどのプラスチック製品などの漂着が確認されている (林重雄ブログ)。

発見時 (13時)、海岸の天候は曇り、気温6.3°C、北の風、風速1 m/s であった。発見時は冬季にしては穏やかで風も弱い調査日和であった。そのため低潮線に打ち上げられた漂着物は少なかったが、高潮線には漂着物が密集していたために、高潮線を中心に調査を行った。

打ち上げられていた白樺浮きの結わえられていた浮子網は長く、漂流のため絡み合っていたが少なくとも10m以上はあった。白樺浮きは乾燥状態でどれも直径が23mm、全長が85mmほどであった。また浮子網には1本の繊維からできているモノフィラメント素材の漁網と、穴が貫通した直径20mmほどの発泡スチレンボールも通してあり、白樺浮きと発泡スチレンボールを浮力体にした網漁具の一部であった。

考察 2015年1月の福井県若狭地方は荒れた日が多く、1月18日までに松原海岸に最寄りの美浜測候所データによれば、最大風速が8 m/s を超す日が10日、一日の平均風速が3 m/s を超す日が8

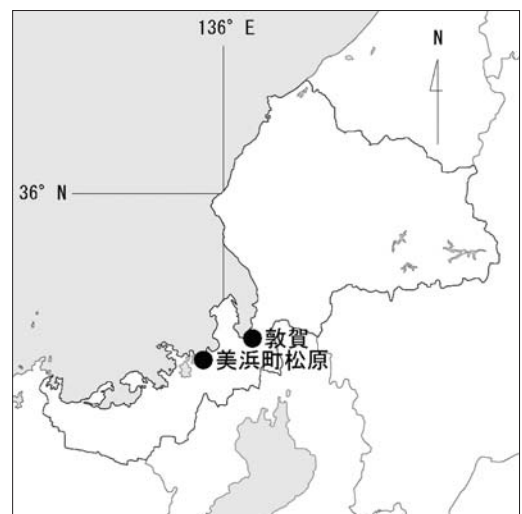


図1 美浜町松原海岸海岸の位置



図2 漂着していた白樺浮きと発泡スチレンボール

日あり（気象庁ホームページ）、こうした荒れによる風波が大量の漂着物をもたらした原因であろう。

漂着物が密集していた松原海岸の高潮線上で10mの範囲を区切ってサンプリングして、漂着物に記された文字をたよりに92個の漂着物から流出元を探った。その結果は、ハングル61.9%、日本語17.4%、簡体字17.4%、繁体字1%、キリル文字2.2%とハングルが圧倒的に多かった。これは同時期に行った若狭地方6か所の平均割合でもハングルが59.5%であり、例年に比べてもハングルが多く、韓国が流出元と思われる漂着物が多かった。

この高潮線上でのサンプリング範囲では、浮子綱に結わえられていた白樺浮きのほかに単独の白樺浮きが9個見つかった。これは例年に比べてもかなり多く、2015年1月の若狭地方ではどこもこれくらいの出現頻度であった。

浮子綱に結わえられていた白樺浮きと一緒に使われていた発泡スチレンボールには、油性のフェルトペンで記名があった。その記名は達筆で、判読が難しかったがハングルと思われたのでハングルに詳しい友人に判読をお願いした（図3）。その結果、記されていたのはやはりハングルの「금숙」で発音は「くむすく」と読み、人名などに使われるそうである。

白樺浮きの漂着は北陸地方では普通に見られるが、西へ向かうに従い少なくなり、対馬では少なく（今日の散歩道ブログ）、九州北部では稀となる（海辺の宝箱ブログ）。

白樺浮きと随伴する浮きにハングルの記名があり、漂着分布を考慮すると、この白樺浮きは朝鮮半島東側で使われていたものと特定してもよいと思われる。



図3 発泡スチレンボールに描かれたハングル

謝辞：本稿をまとめるにあたり足立智美氏には、ハングルの判読をしていただいた。北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。ここに記してお礼申し上げます。

引用文献

- 林 重雄 ブログ. Beachcomber's Logbook (<http://beachcomb.exblog.jp/>) (2015年2月10日閲覧)
石井 忠 2013. ビーチコーミングをはじめよう. 木星舎, 福岡.
井上 治 2012. 北東アジアの白樺樹皮文化. 北東アジア研究 (22): 81-106.
気象庁ホームページ. (<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>) (2015年2月10日閲覧)
貴島恒夫・岡本省吾・林 昭三 1977. 原色木材材図鑑〈改訂版〉. 保育社, 大阪.
今日の散歩道ブログ. (<http://blog.fuzineko.catfood.jp/>) (2015年2月10日閲覧)
海辺の宝箱ブログ. (<http://umibe.blog.bbiq.jp/>) (2015年2月10日閲覧)

(Received Feb. 18, 2015; accepted Mar. 18, 2015)

¹ 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

¹ 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City 486-0844 Japan